

1. 構想の概要

“藝大”創造イニシアティブ ～オンリーワンのグローバル戦略～

構想の概要

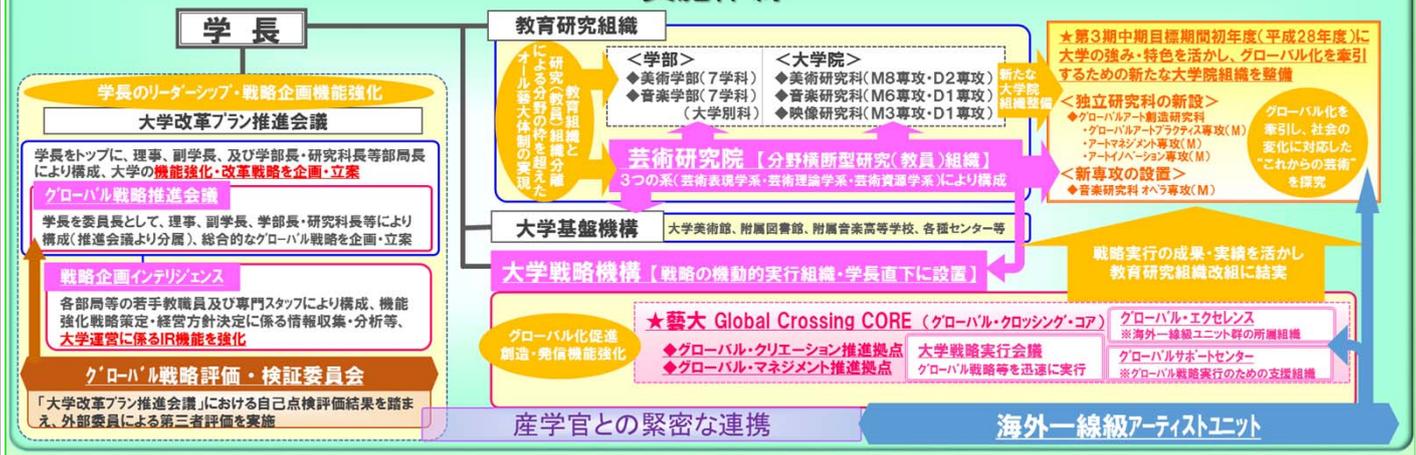
- ◆海外からの一線級アーティストユニット誘致や国際共同カリキュラム構築等によるグローバル人材育成機能の強化、海外への戦略的展開、国際プレゼンスの確立等のグローバル戦略を、大学の総力を結集し“オール藝大”体制により推進
- ◆東アジアにおける中核的機関としての機能・役割を確立し、海外大学・関係機関等との連携基盤を活かしながら、世界トップアーティスト育成等を総合的に推進することにより、世界の有力芸術大学をも凌駕・超越する国際ブランド“藝大”へ飛躍
- ◆本学が立地する“上野の杜”が有する世界的にも屈指の芸術文化潜在力を最大限活かし、本学のグローバル戦略・人材育成と、2020年東京オリンピックを視野に国が推進する“上野「文化の杜」新構想”を有機的に連動させ、藝大の“人財”等ポテンシャルを活かしたコンシェルジュ機能を発揮し「文化プログラム」を実行
- ◆“上野の杜”の魅力・実力を世界中に浸透させ、世界を代表する「国際芸術文化拠点」への発展に繋げ、東京都・関係機関等との広域的な連携・共同により、多様な文化資源のシームレスな流れを創出し、芸術文化ネットワークを構築



SGUの取り組みを通じて目指す大学の将来像

- ◆育成した人材が傑出した技芸・知識・感性・アイデンティティを武器に、芸術文化の創造・発信や国際貢献等に力を発揮
- ◆国際的見地から“藝大”の強み・特色を明確化し、国際社会に発信することで、“世界の藝大”としてのプレゼンスを確立
- ◆教員・学生等がアートコンシェルジュとなり、世界の人々に日本の芸術文化価値を伝える為の国際発信拠点を形成
- ◆“上野の杜”を世界最大のアートプラットホームとし、文化資源の統合により国際都市東京に芸術文化ネットワークを構築

実施体制



10年間の計画概要

区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
学内機能・基盤強化	グローバル戦略推進委員会、戦略企画インテリジェンス等学内体制整備	大学戦略機構“Global Crossing Core”設置	留学生支援、日本人留学支援、海外ユニット誘致等のサポートを行う“グローバルサポートセンター”設置	新たな年俸制制度への移行による一線級アーティスト・クリエイター等卓越した人材の獲得	グローバル戦略の第三者評価・検証を行う“グローバル戦略評価・検証委員会”設置
		新たな研究(教員)組織“芸術研究院”設置、教員選考方法等の見直し	学生支援のための“総合キャリア・ポートフォリオシステム”開発開始、“シニアチューター”配置	国際芸術創造研究科、音楽研究科オペラ専攻設置等、組織整備	飛び入学、ナンバリング、シラバス英語化、外国語科目・コースの整備等
“Integration”	新研究科・専攻設置、飛び入学導入等に係る検討・準備	国際芸術創造研究科、音楽研究科オペラ専攻設置等、組織整備	飛び入学、ナンバリング、シラバス英語化、外国語科目・コースの整備等		
海外一線級アーティストユニット誘致	ユニット誘致準備(渡航・協議)	ユニット誘致最終調整	国際共同プロジェクト開始	ユニット誘致①: ファインアート分野(ロンドン芸術大学 他)、映画分野(フランス国立映画学校 他)	ユニット誘致②: 音楽表現分野(ベルリンフィルハーモニー管弦楽団 他) オペラ分野(ウィーン音楽演劇大学 他)、工芸・文化財分野(精華大学 他) アニメーション分野(ハーバード大学 他)
“Collaboration”	拠点機能検討	拠点整備①: パリ、北京	拠点整備②: ロンドン、ベルリン、ローマ、ウィーン、ブダペスト、ホストン、ソウル	拠点整備③: ロサンゼルス、台北、ハノイ、ジャカルタ	拠点整備④: クアラルンプール、ウランハートル
海外戦略拠点整備	拠点整備準備(渡航・協議)	海外における制作・展示・公演等国際プロジェクト教育ユニットの海外派遣 等の検討・実施			
“Development”	上野の杜他、国内関係大学・企業等との協議、体制整備、システム検討	国内の自治体・企業等との社会実践(ソーシャルプラクティス)、アウトリーチプログラムの実施	プログラム実施体制等の整備	“上野の杜”をリージョナルキャンパスとした制作・展示・公演等活動の実施	“上野の杜”関係機関との共同によるアートコンシェルジュ機能整備、キャリアアッププログラム開始
国内連携基盤強化		上野“文化の杜”構想取りまとめ		“上野の杜”関係機関との共同による芸術文化資源の総合アーカイブネットワーク構築	“上野の杜”における国際芸術の祭典を検討・開催
“Branding”	国内外の芸術系大学との協議開始	国際芸術系大学サミット開催	ブランディングに係る観点、指標等制度設計に向けた検討(有識者会議設置)	“藝大”の過去の受賞歴等実績、国際貢献活動等の記録に係る情報収集・整理	ブランディングに係る海外芸術系大学の調査
先導的ブランディングシステム構築			国内外の芸術系大学・機関との協議	ブランディングシステム試行	試行結果の検証
			国内外の芸術系大学・機関との協議	ブランディング戦略としての教育情報等の多言語国際発信、国際芸術系大学サミットの実施	ブランディングシステムの構築・情報発信

整備したグローバル基盤を複合的に作用させ、更なる展開へ

平成31年度

平成32年度

東京オリンピック2020にあわせ、文化芸術プログラムを実行

平成33年度

平成34年度

平成35年度

平成30年度までに学内機能・基盤強化、海外一線級アーティストユニット誘致の整備・拡充、海外拠点の整備、国内連携基盤の強化、先導的ブランディングシステムの設計、試行・検証を完了させ、自己点検・外部評価・政策動向等を踏まえつつ、東京オリンピックにおける文化芸術プログラムの展開を経て、個別事業・諸活動を継続

PDCAサイクルによる不断の見直しを実施、サステナブルなグローバル化を実行

特徴的な取り組み

“Integration”

【統合・集積】

世界的にも稀な総合芸術大学として、本学が有する美術、音楽及び映像に係る世界水準の教育研究リソースを総結集し、分野横断的・複合的な「オール藝大」体制の下、複数分野を専攻する大学院「ダブルメジャープログラム」実施等、海外一線級ユニット誘致とも連動し多角的・多面的アプローチによる新たな芸術文化価値「ジャパンブランド」を創造・発信



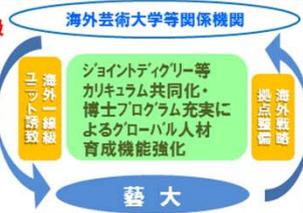
“オール藝大”体制による分野横断的・複合的な新たな芸術文化価値を創出、大学院におけるダブルメジャープログラム等人材育成プログラムを革新

“藝大”にしか実現できない 独自の・先導的な戦略を実行

海外一流芸術大学・関係機関との連携・ネットワーク基盤を活かした「海外一線級アーティストユニット誘致」及び「海外戦略拠点整備」等により欧米との距離の壁を克服し、本学固有の「芸術実践領域博士プログラム」強化、「ジョイントディグリー」等カリキュラム共同化によるグローバル人材育成機能の強化

“Collaboration”

【共同・共演】



“Development”

【展開・発展】

我が国屈指の文化集積地“上野の杜”のポテンシャルを活かし、上野の杜全体を「広域(リージョナル)キャンパス」として活用、「ソーシャルプラクティス」や「国際芸術祭」など海外一線級ユニットも活用した人材育成・教育研究成果発信により「国際遊学都市」へと展開、2020年東京オリンピック開催を契機に「国際的芸術文化都市」へ発展



Quad Initiative

戦略実行に係る4つの先導力

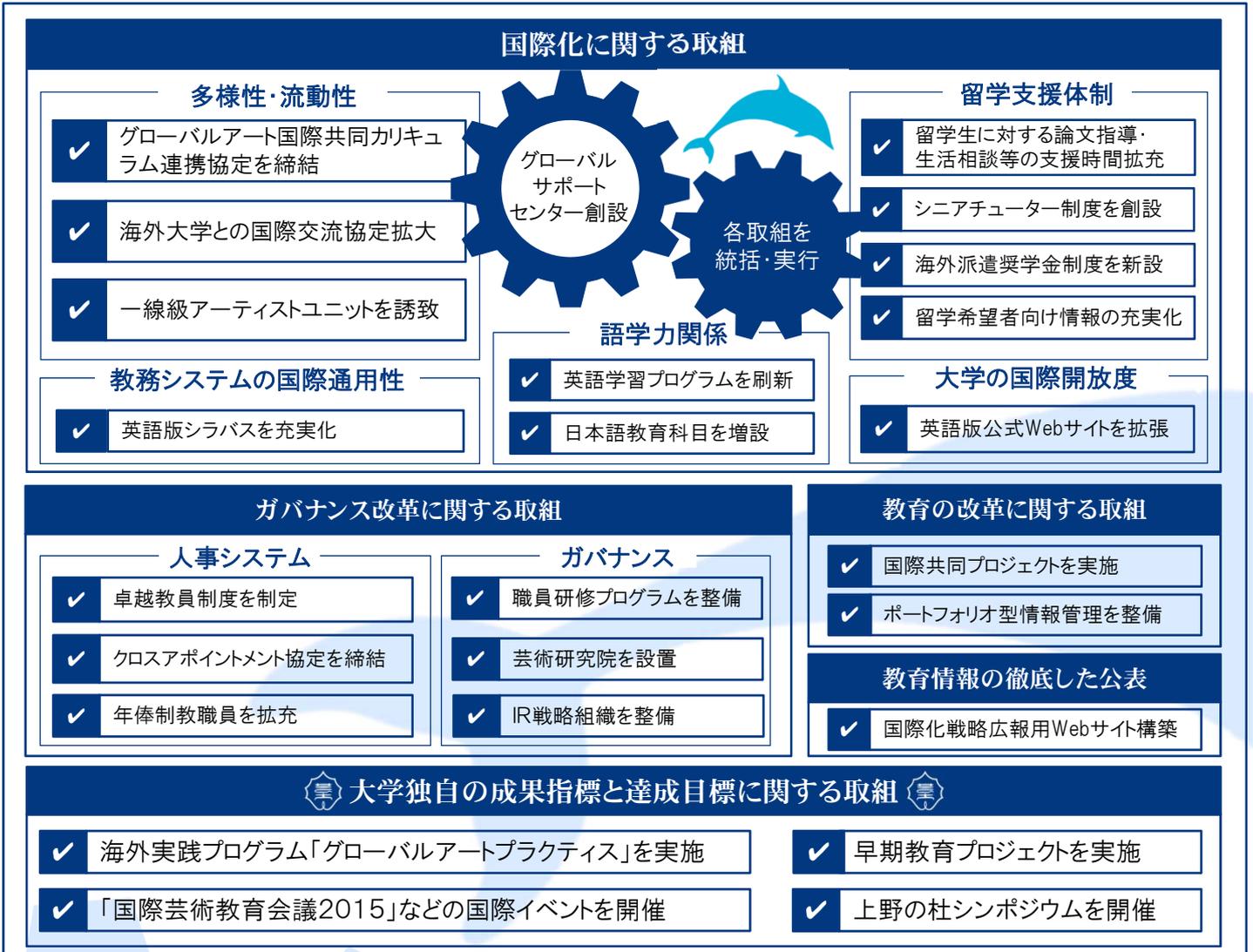
未だ確立されていない世界の芸術系大学の国際指標や相対的な強み・特色を、本学が中核となり、世界一流芸術系大学や海外一線級ユニットとも連携しつつ検証・分析して芸術系大学に係る評価のグローバルスタンダードを構築し、世界における本学の教育研究力等国際プレゼンスの明確化や国際発信により「藝大ブランド」を確立し、“上野の杜”の国際プレゼンスも併せて向上

“Branding”

【価値・プレゼンス向上】



2. 取組内容の進捗状況(平成26年度)



東京藝術大学の特性を踏まえた特徴ある取組

: 独自指標関連を示す

海外の芸術系大学・機関と国際的・先進的な連携体制を構築

- 平成26年度、東京藝術大学のグローバル展開を推進する中核組織として、「**グローバルサポートセンター**」を創設した。
- 同組織には**外国籍教員**や**海外大学で学位を取得した教職員**を配属し、国際連携に係る交渉促進、留学生・留学希望者の支援強化、教育システムの国際通用性向上など、全学的なグローバル戦略を実行に移した。
- また、世界最高水準の芸術教育・実践を国内外の様々なフィールドで展開するため、美術分野では、**ロンドン芸術大学**、**パリ国立高等美術学校**、**シカゴ美術館附属美術大学**との「**グローバルアート国際共同カリキュラム**」構築に向けた連携協定を締結。音楽分野では、**英国王立音楽院**との教員・学生の相互交流や共同プロジェクト開催についての**協定を締結**した。
- この他にも、多数の海外芸術系大学・機関との**国際交流協定の締結**や連携の促進を行い、持続的でグローバルな教育体制を構築した。



教職員採用制度・研修プログラムを整備

- 年俸制教職員を拡充**し、また、海外大学等との交渉に参画する**国際実務研修**、**長期的な英語研修を開始**した。

教員組織・ガバナンス体制を再構築

- 分野横断型の教員組織「**芸術研究院**」を設置し、また、経営戦略やブランド戦略を担う**IR組織を構築**し、専任研究者を配置した。

一線級アーティストユニットの誘致による国際共同プロジェクトを開始

- 海外芸術系大学・機関との連携体制を基盤として、**新設した卓越教員制度やクロスアポイントメント協定等の制度を活用し、数多くの一流アーティストを教員として誘致し、学生との共同制作・共同演奏等を開始した。**
- 美術分野では、**国際共同カリキュラム連携校とのコラボレーションプロジェクトが始動。**藝大の教員・学生と各大学の教員・学生とがチームとなって東京とロンドン／パリ／シカゴを行き来し、共同の授業として、各国で行われる国際芸術祭などを舞台にした共同制作・成果発表を実施する。
- 音楽分野では、**ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団**から演奏家を招き、学生への実技指導や演奏会での共演を実施した。引き続き、**パリ国立高等音楽院、英国王立音楽院、リスト音楽院**などから教員を招聘する。
- 映像分野では、**南カリフォルニア大学**などから教員を招き、バーチャルリアリティなどの**レクチャーを開催**する。また、連携校との**国際学生共同制作や、カナダCDMと横浜市との産学官国際共同プロジェクトを実施**する。



←パリ国立高等美術学校から誘致した教員による特別講義。「ポスト・フクシマのアート」などのテーマが扱われた。

→ベルリン・フィルから招聘した教員による演奏指導。奏楽堂でのコンサートも開催された。



←中国伝媒大学と韓国芸術総合学校との「アニメーション国際学生共同制作」の作品。

語学学習プログラムを刷新

- TOEFL対応科目の開講、e-Learningシステムの導入、英会話個人レッスンの拡大、「芸術家としての英語表現」をテーマとした**特別講座の実施**など、多角的改革を行った。
- また、**日本語・日本事情担当教員を拡充し、留学生の為に日本語科目を増設した。**

各取組を連動させ全学的な国際化を推進中

教育支援・教育情報発信機能を増強

- 学生の海外留学籍、海外活動歴、語学能力、社会実践活動の記録等についてデータを蓄積し、修学支援に活かす、**ポートフォリオ型情報管理の仕組みを構築**した。
- また、**英語版シラバス・英語版公式Webサイトを拡充**した。

留学生・留学希望者を支援する仕組みを充実

- 留学生に対する**論文指導・生活相談等の支援時間拡充**に併せ、留学生の学習・生活を組織的にサポートする為に、**シニアチューター制度を新設**した。
- また、「**海外派遣奨学金**」制度を**新設**し、**海外留学の手引き改訂**等の情報整備と併せ、海外留学・海外研修を希望する学生への支援を充実化した。



学生の海外活動機会の拡充

- 世界を舞台にした**実践型教育プログラム「グローバルアートプラクティス」事業を実施**し、多くの学生が海外での展示会、演奏会、共同制作などを行った。



↑パリ島での制作展示会



↑クラン=モンタナでの制作展示会

教育現場での実践を含む国際イベントを開催

- アジア6カ国から10の芸術系大学を招いて開催した「**国際芸術教育会議2015**」では、参加各校の教員と本学の教員・学生が分野別に展示会やワークショップ等を実施し、その成果を含めて全体シンポジウムを行うことで芸術教育の現場の実践的な知見を共有した。
- また、「**産学官アニメーション国際シンポジウム2015**」では、「人材育成」と「コンテンツプロデュース」という2つのテーマについて、世界各国で活躍する教育者や実務者を招いて議論した。



←オープニングでは国際コンクール受賞学生が演奏。

早期教育プロジェクトを実施

- 福岡と札幌で、**小学生を対象にレッスンを開催**(ピアノ・ヴァイオリン・フルート)。子ども達が目を輝かせた。



上野の杜シンポジウムを開催

- 上野「文化の杜」新構想**シンポジウムを開催**し、各分野の専門家と200名を超える来場者が意見を交わした。



広報機能を強化

- 国際化戦略の推進状況を情報発信するための**Webサイトを新設**した。

<http://global.geidai.ac.jp>

3. 取組内容の進捗状況(平成27年度)

国 : 国際化関連
 ガ : ガバナンス改革関連
 教 : 教育改革関連
 学 : 大学独自の成果指標関連

グローバルアート国際共同カリキュラム 国 教 学

藝大と各連携大学の学生・教員の混成チームが、双方で単位化した共同授業として、東京とパリ／ロンドン／シカゴを歩き来しながら共同調査・制作を行い、芸術祭等で成果を発表した。藝大生20名、連携大学の学生20名が参加。



東京藝術大学 × パリ国立高等美術学校

共同授業 in パリ (6月：2週間)
共同授業 in 東京 (6-7月：3週間)
成果発表 in 新潟 (7-8月：3週間)

東京藝術大学 × ロンドン芸術大学

共同授業 in ロンドン (8月：2週間)
共同授業 in 東京 (10月：3週間)
成果発表 in 高松 (10月：1週間)

東京藝術大学 × シカゴ美術館附属美術大学

共同授業 in シカゴ (11月：10日間)
共同授業 in 東京 (1月：1週間)
成果発表 in 広島 (1月：1週間)



海外一線級アーティストユニットの誘致 国 ガ 学

パリ国立高等美術学校、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、パリ国立高等音楽院、英国王立音楽院、南カリフォルニア大学、パリ国立高等装飾芸術学校、カナダ・Centre for Digital Media等から美術・音楽・映像分野の世界一線級アーティストを教員として誘致し、特別講義、個人指導、コンサートでの学生との共演など、多彩な教育プログラムを展開した。



海外実践型研修授業 Arts Study Abroad Program 国 教 学

教員が専門分野の特色を活かし、各国の芸術祭や音楽祭への参加、海外芸術系大学との共同制作など、海外実践型の研修授業を企画・実施した。美術・音楽・映像の3分野計11の活動に86名の学生が参加。参加学生には、大学から「海外派遣奨学金」が給付され、渡航費や滞在費などの学生負担が大きく軽減された。



グローバル・リーダーによる特別講演の開催 | 芸術文化外交の推進



藝大が有する環境や教育研究成果には世界各国の要人も注目している。平成27年度には、イタリア共和国マッテオ・レニツィ首相による日伊の芸術文化交流をテーマとした特別講演や、フランス前首相(現・外相)・ナント市名誉市長であるジャン＝マルク・エロー氏による特別講演「よみがえるナント-文化による都市再生の軌跡-」を開催した。また、オランダ王国のマルク・ルッテ首相が来訪され、芸術と科学との融合等の分野における日蘭の国際連携に向け、学長と会談した。



イタリア首相による特別講演



オランダ首相との会談

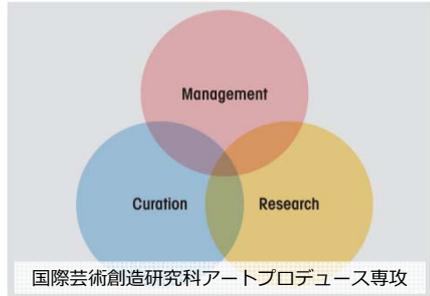


フランス前首相による特別講演

グローバル社会を切り拓く新研究科・新専攻の設置



平成28年4月、大学院に「国際芸術創造研究科」を新設した。「アートマネジメント」「キュレーション」「リサーチ」の三領域で、芸術と社会の新しい関係を提案できる卓越した人材の育成を進める。さらに、美術研究科にはグローバルアートプラクティス専攻、音楽研究科にはオペラ専攻をそれぞれ開設し、世界の第一線で活躍できるアーティストの輩出を目指す。

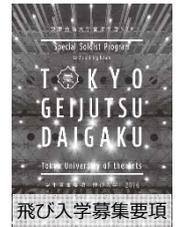


早期教育プロジェクトの全国展開 | 飛び入学制度の開始



平成27年度は、7都市で計9回のプレレッスンを開催し、全国の小中学生・高校生に対して本学の教員・学生が演奏指導やミニコンサートの披露を行った。また、飛び入学についても制度設計を完了し、第一回の入試を実施した。

上野 7.28	北九州 12.26
和歌山 8.20	仙台②③ 1.31
浜松 9.26	宮崎 3.12,13
仙台① 12.6	札幌 3.28,29



世界最高峰の芸術系大学・機関との国際交流協定の締結



平成27年度に新規締結した国際交流協定

- 国立台湾師範大学
- パリ国立高等装飾芸術学校
- リスト音楽院
- ベルリン芸術大学
- オランダ芸術科学保存協会
- 檀国大学 (映像コンテンツ専門大学院)



「オール藝大」で推進する多彩なグローバル化の取組



- 台湾教育部招聘による芸術系大学・機関への学長訪問
- 国際シンポジウム「社会を創る美術教育」での学長スピーチ
- シンポジウム「グローバル時代の芸術大学の未来」の開催
- フランス首相夫人による音楽学部施設・授業風景の視察
- 韓国文化院との連携による日韓文化交流事業の推進
- 外国人留学生の為の日本文化体験イベントの開催
- ドイツ語、フランス語、イタリア語の語学集中講座開講
- 「留学生の藝大体験記」を日本語/英語でWeb発信

